

会		議		記		録	
会議の名称		予算特別委員会（全体会）				会議場所 全員協議会室	
						担当職員 鈴木	
日 時	令和2年3月13日（金曜日）			開 議		午後 1 時 3 0 分	
				閉 議		午後 1 時 4 9 分	
出席委員	◎福井 ○竹田 長澤 三上 富谷 浅田 大塚 平本 田中 並河 山本 木村 赤坂 三宅 松山 小川 奥野 小松 藤本 木曾 西口 菱田 石野 <齊藤議長>						
執行機関出席者							
事務局出席者		山内事務局長、井上次長、船越副課長、鈴木議事調査係長、佐藤主任、山末主査					
傍聴		市民0名		報道関係者0名		議員0名（一）	

会 議 の 概 要

13：30

1 予算審査

（1）市長質疑項目

- ・各分科会の報告～全体会の決定

<福井委員長>

昨日までの各分科会審査で抽出された市長質疑項目については、一覧表のとおりである。本日の全体会では、分科会で決定された市長質疑の内容について、各分科会委員長から報告いただき、全体会として内容を共有し、予算特別委員会全体会の市長質疑項目として決定する。全体会で確認し、合意を得られれば、本日午後に執行部に送付する。

[総務文教分科会報告]

<山本委員（総務文教分科会委員長）>

総務文教分科会では、市長質疑項目として5項目を抽出した。1つ目は、市長公室の移住・定住促進経費である。移住・定住促進施設である「離れ」にのうみを観光振興施設へ切り替えるべきとした、令和元年9月の決算特別委員会事務事業評価結果が反映されていなかった。これに対し、新年度からは指定管理者制度を導入し、今まで以上に発展していけるよう努めていきたいという担当課からの説明があった。今後の事業運営の見通しについて、市長にただしていきたい。2つ目は、企画管理部である。頻発する自然災害や新型コロナウイルスなどにより、突発的な財政出動や税収減が想定される中、市政運営全般に関し持続可能な財政運営について、どのように考えているのか。また、市民福祉増進のため、重要な諸課題の優先順位をどのように考え、第5次亀岡市総合計画に反映させていくのかということを経理にただしていきたい。3つ目は、生涯学習部の文化振興経費である。かめおか霧の芸術祭に係る経費については、昨年より500万円増額されているが、KIRI CAFEで何をしようとしているのか。市民に感動を与えているものであるのか。また、現代アートはわかりづらく、本当に市民に理解を得られるものなのかということなど、分科会

で様々な意見が出た。市長が目指すかめおか霧の芸術祭の方向性について、ただしていききたい。4つ目は、生涯学習部の地域交流促進経費である。これについては、平成30年9月の決算及び平成31年の予算において指摘要望を上げていた。NPO法人に委託して実施している隣保館デイサービス事業に関して、決められた予算の委託料とは別に、プラスアルファで利用者から実費を徴収していた事実があり、この実費負担分はどのような形で使われ、処理されたのかについて、再三にわたり議会から明らかにするよう指摘していたにもかかわらず、いまだに実費負担分の使途が明らかにされていないのはなぜかということである。そしてもう1点は、令和2年度亀岡市立人権福祉センター隣保館デイサービス事業の委託先を、公募型プロポーザル方式で選定しようとしているが、応募されたのが先ほど申し上げたNPO法人1者であり、これまでと同じNPO法人に委託することになることが想定されている。本当にそれでよいのか、どのように市長として考えているのかについてただしていききたい。5つ目は、教育部のふるさと学習推進経費である。京都スタジアムや大河ドラマ館等の見学に係るバス運行経費については、ふるさとを理解し、愛着を育む教育を推進するため、既存の教育効果のある教材である「わたしたちのまち亀岡」という社会科副読本を使う時間の確保もできていない中で、時間とお金をかけて、この事業にどの程度、効果があるのかということである。また、新型コロナウイルスの影響によって、今後、授業時間数の不足が見込まれた場合、この事業の実施については柔軟に対応する考えはあるのかということをも市長にただしていききたい。以上5点を質疑する。

[質疑]

<小松委員>

ふるさと学習推進経費の論点で、今後、授業時間数の不足が見込まれた場合とは、ふるさと学習の授業時間のことであるのか。

<山本総務文教分科会委員長>

新型コロナウイルスにより13日まで休校となっているが、24日まで延びたことにより、授業が遅れた場合のことである。

[環境厚生分科会報告]

<並河委員（環境厚生分科会委員長）>

環境厚生分科会では2点抽出した。1点目は、施策の概要3ページの環境先進都市推進事業経費についてである。「環境先進都市・亀岡」の実現に向け、亀岡プラスチックごみゼロ宣言に関係する事業をはじめとする各種事業を展開し、環境を切り口とした持続的な環境型社会の創出を目指すことになっている。これに関し、FLY BAGの生産拠点整備について、今後の事業展開の構想はどうかということである。100万円の予算で、京都府の補助が10分の7であるが、その事業展開の構想はどうかということである。また、プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例の施行に向けたシンポジウムの実施について、メンバー構成や実施方法はどうかということである。今議会に提出されているこの条例案についても、いろいろと議論された中で、条例施行に向けたシンポジウムについて質疑したい。2点目は、子ども子育て支援経費についてである。施策の概要では、第2期亀岡市子ども・子育て支援事業計画に基づき、

本市における子育て支援の充実に向けて、各種の子育て支援施策・事業を実施するとともに、子育て支援イベントを開催し、子育て支援施策の更なる啓発と利用促進を図ることになっている。本市においても、常任委員会で提案し子どもの権利条例を制定した。子どもの貧困の連鎖を断ち切る取組を推進するため、全庁横断的なプロジェクトチームを立ち上げるとのことだが、プロジェクトチームの具体的な体制と取組内容について質疑したい。

[質疑]

(なし)

[産業建設分科会報告]

<菱田委員（産業建設分科会委員長）>

農業担い手づくり育成事業経費については、論点を2つに分けた。1つ目は、「家族営農等の小規模農家や新規就農を振興するために、予算をしっかりと計上することが重要であるが、どのように考えているのか」である。2点目は、「安心して農業を行えるように、総合的にマネジメントできる人材が必要だと考えるが、今後どのような対策を図るのか」ということであった。特に2点目については、今、農林振興課に担い手専任マネージャーを1名配置している。元JAの営農指導員が専任マネージャーとして、人と地域や、地域間交流に関して仕事をしていただいているが、それ以上に栽培され、産地化された農産物をマネジメントしていくという観点が必要ではないかということである。2点目の林業担い手育成事業経費については、「林業の担い手不足により放置山林が目立っているため、森林環境税等を有効に活用し、林業に携わりやすい環境づくりが大切になってくる。防災の観点からも、健全な山林の保全が求められるが、今後どのように林業の担い手を育成し、山林を保全していくのか。」という論点で上げたものである。

[質疑]

(なし)

<福井委員長>

それでは、各分科会から説明いただいた9項目について、全体会として市長質疑項目とすることに異議はないか。

(異議なし)

—各分科会の質疑項目を全体会の質疑項目として決定—

(2) 現地視察

<福井委員長>

これまでに審査した当初予算案に関する内容について、現地視察を実施すべき項目があるかどうか、意見を聞きたい。

<並河委員>

環境厚生分科会では、新型コロナウイルス感染症の関係で、議員全員が一緒に現地視察することについては、市民から見た場合にどうかという意見もあ

り、今回は見送ることとしたい。
<福井委員長>
そのほかの委員会から意見はない。今回は現地視察を実施しないこととする。

2 その他

(事務局長 日程報告)

<福井委員長>
本日はこれで、予算特別委員会全体会を散会する。

散会 13:49